

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、1999年の5,450トンピークに減少傾向を示し、2002, 2003年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後、2004年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、2005年以降減少傾向を示し、2022年は168トンと過去最低の漁獲量となりました。

志布志湾海域では、2007年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000トン前後で増減を繰り返しながら推移し、2022年は308トンと過去最低の漁獲量となりました。

2. 2023年1～2月の漁況の経過

西薩海域では、水揚げはありませんでした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に43トンの水揚げで、前年の473%、平年の138%でした。

3. 2023年4～6月期の見通し

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。西薩海域ではマイワシシラスも混じる可能性があります。

来遊量は、西薩海域は、前年を上回り、平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域は、前年を上回り、平年並みと考えられます。

(根拠)

西薩海域では、直近の漁模様や海況の状況から前年を上回り、平年を下回ると考えられます。

志布志湾海域では、直近の漁模様から前年を上回り、平年並みと考えられます。

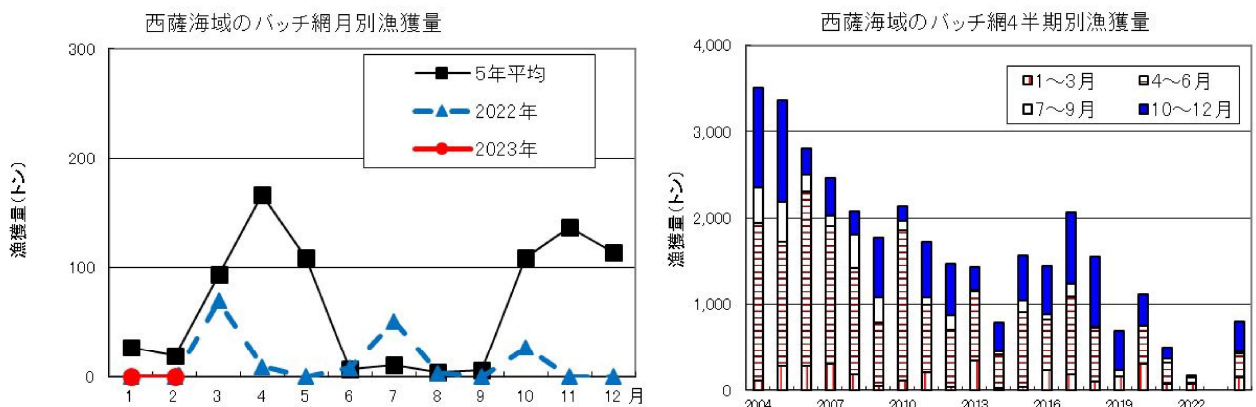


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

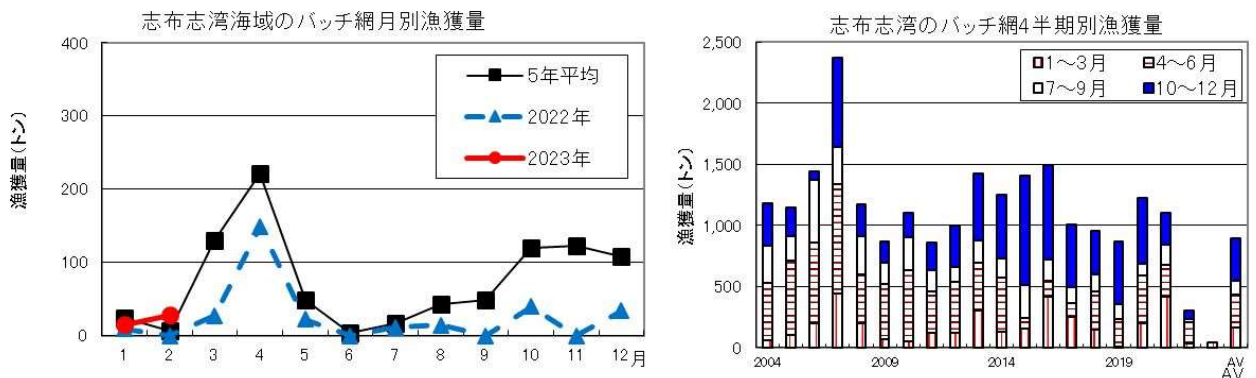


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去5年の平均値(AV), 2023年2月28日までの水揚量を使用